

ふじしろ政夫と共に市政を変える会ニュース

発行 ふじしろ政夫と共に市政を変える会

2009年12月号

〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50

TEL & FAX 047-445-9144

Eメール masao.fujishiro@zc.wakwak.com

ホームページ <http://e-kamagaya.com/>

今そこにある貧困 自己責任と切り捨てていいのか？

NPO 法人自立生活サポートセンター“もやい”事務局長湯浅誠さんのお話を聞く機会がありました。

日本の相対的貧困率が発表されました 15.7%です。先進国の中ではアメリカに次いで高い貧困率。中央値 448 万円の半分 224 万円以下の人の割合が 15.7%いるということです。しかも日本の状況は相対的貧困率ライン以下の現役世帯の約 80%で一人あるいは二人が働いているのが実態だそうです。



それ故「働けば何とか生きていける」という神話はもうすでになくなっており「働いても貧困を避けられない」のが日本の貧困の実状だと湯浅さんは指摘しました。然るに世間の声は野宿している人・フリーターに対して「真面目に働く気がない人だ」とその人個人の問題にしてしま

まい、**貧困を社会が正面から向き合うべき課題**だという認識のない状況であると語りました。そしてこれまで、“神話”に基づいた政策しかとってこなかったが故に何一つ解決していないと批判しました。更に日本の社会は“すべり台社会”で一度つまづくと路上生活者へと落ちてしまう社会だと指摘。**“社会とはトラブルがあった時止めてくれるものがあるのが本当の姿”**、すべり台から階段社会へ、**歯止めを幾段にもかける社会の必要性を訴えました。**

また経済成長率は国の成長率であり、国民の健全率は貧困率を指標として判断すべきと指摘しました。

最後に「派遣村の人々の問題は、かわいそうという問題ではなく今後の私たちの社会をどうしていくのかの問題です」と生活を壊さずに年を越せる社会をつくっていく必要性を語り、自治体の役割としてハローワーク等に社会福祉事務所や社協の人々を同席させ対応させる体制“ワンストップサービス”を実現していくべきと提起しました。

政権が交代したのです。**セーフティネットのある生きやすい、暮らしやすい社会をつくりましょう。**

***ハローワーク設備が中心になり周辺 5 市が協力してワンストップサービスが 11/30 試行されます。**

“住民不在”で北総鉄道運賃値下げ案決まる



11月2日突如、副市長会議が開かれ、11/4までに回答せよとの県のいつものパターン。結局**住民の声を聞くことなく、住民に情報公開することなく**県と都市機構、6市2村の首長・部長、京成、北総、国土交通省の役人だけで決めてしまった。

抜本的な値下げでもなく、京成電鉄と周辺自治体の懐具合のすり合わせでしかない方法で、これからの5年間縛られる(?) 5%値下げ(通学定期 25%、通勤定期 1%)の為に県 1.5 億円

自治体 1.5 億円、京成 2.5 億円、北総 0.5 億円ちなみに鎌ヶ谷市は 900 万円を 5 年間補助金として出すこととなります。清水市長が同意の条件として記入した「線路使用料の検討」「国の関与」「会議の継続」を当然県は担保すべきだと思われます。

成田空港と都心を結ぶ成田新高速鉄道は、国の空港政策ともいえます。国・県の鉄道・空港政策の中で北総鉄道の運賃の値下げを検討すべきです。

行政刷新会議

「事業仕分け」は何を生み出すか

11月11日から17日まで事業仕分け第一弾がありました。平成22年度国の予算をつくっていく為の仕分けが始まってから、マスコミ等では「70%以上の国民が仕分けに賛成している」と報ずると同時に「一時間ほどで廃止・見直し



とバサバサ切り捨てていいのか?」「財務省の手のひらで踊らされている」「小泉政権の新自由主義者が

仕分け人だし、その様子は大衆迎合主義といった面もある」といった批判が出されています…

どうなのだろうか? 事業仕分けの現場(国立印刷局市ヶ谷センター)を傍聴してみました。

3つの会場に仕切られ、それぞれ10数人の仕分け人が省庁の官僚からの説明を聞きながら判断するものでした。会場にはマスコミのカメラが山のように設置されており、傍聴の市民も椅子に座りきれないほど集まっておりました。

このように市民に予算の内容について事前に公開され議論されたことがあったのでしょうか。“情報公開”こそ生活第一の政治を実現する第一歩だとも思われました。

しかし官僚の説明の不十分性、不明瞭さが目立ちました。第一ワーキンググループでは福島元我孫子市長が座長となり仕分けをしておりました。“国際機関への任意拠出金16億円”について説明人の官僚は世銀森林事業パートナーシップ基金の中に植林事業が入っているかどうかすら答弁出来ず結局「予算縮減」。

市民の素朴な質問に十分な説明ができない事業に億からのお金が毎年使われ続けてきた事が問題です。この様なことが明らかになったのも今回の公開仕分けがあったればこそと思われました。

ただ仕分けの基準が“費用対効果”に偏り、国のあり様を変えていく将来ビジョンとの関係で語られていないことが不安でした。

“県民参加”が消えていく

千葉県総合計画策定・拙速

県政状況を聞く会(県議:大野ひろみ・川本幸立さんから)がありました。

千葉県の“平成22年から10年間の基本構想”が約半年間で作られようとしているとのこと。策定懇談会は3回だけ、県民からのアンケートと1回のパブリックコメントで来年2月議会で成立させたいとのこと。骨子案には「県民参加」「NPO」の文字が消えていました。三番瀬の再生・第二湾岸道路問題・鬼沼山の問題、新しい産業・エネルギー政策は? 福祉施策はどうなるか? 県民にとっても大切な課題がたくさんあります。森田知事は①県民と共につくらず、②県民に情報を徹底的に公開せず、③十分な時間をかけずに策定しようとしています。県民には参加の権利と知る権利があることを理解していないのでは?…県政の姿勢を正して欲しいものです。

<12月議会の予定>

開会: 11/30 ~ 閉会: 12/18
 代表質疑: 12/8 常任委員会: 12/9・10
 一般質問: 12/11・14・15・16

<主な議題>

- ◎職員の給料・期末手当の引き下げ
- ◎歳末簡易修繕 1200万円
- ◎自立支援給付・生活保護経費補正予算



ふじしろ漁夫の一般質問(予定)



12/15 3時頃~

- ① 地球温暖化対策と生物多様性について
- ② 教員の労働実態と問題点
- ③ “公契約”条例の意義と今後の取り組み

<お知らせ>

- ★法律弁護士無料相談(要予約 ふじしろ迄)
2010年 1/23・2/20・3/20・4/24 13:00~
- ★八ッ場ダムのこれからを考える
12/13(日) 13:30~ 高崎シティギャラリー
- ★八ッ場ダム訴訟 千葉地裁 判決
12/22 13:00~

